

**第 55 回インナー大会・プレゼンテーション部門**  
**企画シート**

所属	____ 桜美林大学 _____ 山田ゼミナール	
チーム名	B チーム	
テーマ	3R の発展による循環型社会の促進	
連絡先① (代表者)	代表者名	円谷 咲季
	電話 自宅 :	_____
	携帯 :	_____
	アドレス 携帯 :	_____
	P C :	_____
連絡先② (副代表者)	副代表者名	吉田 昌弘
	電話 自宅 :	_____
	携帯 :	_____
	アドレス 携帯 :	_____
	P C :	_____
参加者氏名	川崎 聖也 高 芸寧 藤本 真那 堀口 慎太郎	
		(合計人数) 6名
使用機材	主催者常備機材	参加者持込(有・無)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PC(PowerPoint 2013)</li> <li>・ プロジェクター</li> </ul>	無

※代表者・副代表者名は参加申し込み時とご変更のないようお願いいたします。やむを得ずご変更される場合は必ずその旨をメールにてご連絡ください。また、補足資料で紙以外のものを使用する場合は、何を使うか、どのように使うかを参加者持込欄に記入をお願いいたします。

※一次予選のみ小規模教室にはマイクは御座いませんが他の教室には常備されております。

## 3Rの発展による循環型社会の促進

桜美林大学 山田ゼミナール B チーム

### 1 3Rとは

3Rとは、ごみのReduce(発生の抑制)、Reuse(再使用)、Recycle(再生利用)のことである。循環型社会を構築するための基本的方向性を示す標語であり、経済産業省や環境省が積極的に推進している取り組みである。日本では、この3Rに加えて、サーマルリサイクル Thermal Recycle(熱回収)、適正処分が掲げられている(循環型社会形成推進基本法 2000年)。また、3Rの他に、Refuse(拒否)、Repair(修理)、Refine(分別)など多くのRも提起されている。これらのRを推進していくことが、これからの社会の在り方を決めていくことになるであろう。

### 2 マテリアルリサイクルとケミカルリサイクル

マテリアルリサイクルとは、消費活動と生産活動から発生したゴミや使用済み製品を処理して新しい製品を生産する原料にすることである。

ケミカルリサイクルとは、使用済みの資源を化学的に変換してリサイクルすることである。例えば、廃プラスチックの油化、ガス化、廃食用油のディーゼル燃料化、石鹼化、畜産糞尿のバイオガス化などである。

### 3 サーマルリサイクル

サーマルリサイクルとは、マテリアルリサイクルやケミカルリサイクルでは処理することが困難なもの、すなわち廃プラスチックをリサイクルするために、プラスチックを焼却するときに発生するエネルギーを回収し利用することである。プラスチックは石油から作られているので、石油に匹敵する熱エネルギーを回収できる。しかし、焼却により二酸化炭素を発生させてしまう。

### 4 循環型社会の可能性

以上のようなリサイクルには、リサイクルのコストが採算に見合うものであるか、リサイクルの過程で二酸化炭素など発生させることになるという問題がある。消費者も企業もリサイクルという観点から経済のメカニズムを考え、循環が可能となる社会を構築するための方法を考えてみたい。例えば、Rental、Return、ReformなどのRなどを強調することも大切であるかもしれない。焦点は「Re」がどれだけ浸透していくかであろう。